

## 入賞校を訪ねて

## ベルマーク便りコンクール

## 特別賞 草津市立玉川小学校

玉川小では1977年から続くベルマーク運動が昨春、存続の危機に直面しました。PTA業務の効率化が理由でしたが、ベルマークを担当する教養部のメンバーは「作業は大変だけど学校で役立つものを買える運動の火を絶やしていいのか」「どれだけマークが貯まるか、やれるだけのことをしてから決めよう」と、新たな挑戦を始めました。その結果、年3～4万だった点数は今年度、1、2学期だけで6万6千点と大幅にアップしました。

改革の手始めは、クラスごとに回収箱を置き、いつでもマークを入れられるようにしたこと。従来の回収は年2回でしたが、毎月第1金曜を「ベルマークの日」とし、それに合わせてベルマーク便りを発行して収集を呼びかけました。

ベルマーク便りの編集は、学年ごとに5人ほどの教養部メンバーが月替わりで担当しています。楽しく読めるものを目指し、工夫して競い合っています。

仕分け・集計の方法も変えました。全員が集まるのではなく、各学年に任せて1学期分をま



とめるようにしました。企業と点数ごとに封筒を作り、全学年で共有。仕分けるときに表に枚数と点数を書き込みます。集計がかなり楽になりました。

点数増には、収集の呼びかけを地域に広げたことも寄与しています。公民館や郵便局、銀行など校区内の8カ所に回収箱を設置。「ベルマークを集めています！」と書いたポスターを様々な場所に貼り、自治会の回覧板でもPRしました。回収箱は教養部メンバーが住むマンションの一部にも置いており、「年配の方が入れてくれ、意外に集まる」そうです。地元の立命館大学でも、知り合いの先生を通じて学生たちに協力を求めました。

今年度の目標は当初5万点でした。でも、予想以上の点数アップで、夏以降は「20万点」を掲げ、「県ナンバー1を目指そう」を合言葉に頑張っています。部長の木元奈々さんは「部員のいろんな個性が集まっていい結果につながった。受賞はとてもうれしい」と喜んでいますが、副部長の杉町知佳さんも「賞をきっかけにベルマーク収集をさらにアピールしていきたい」と張り切っています。



## 特別賞 三島市立北幼稚園

静岡県三島市立北幼稚園（福尾美幸園長、132人）の「ベルマークだより」が特別賞に選ばれました。ベルマーク担当でPTA副会長の立林美之（みゆき）さんが作成しています。

お送りいただいたベルマーク便り6枚や昨年度の活動報告などからは、継続して活動をして下さっている様子が伝わってきました。



お便りの特徴は、皆さんへの感謝の言葉と、活動の内容が誰にでも見えるようにしてあることです。「平成29年度ベルマーク運動報告」には、送付したマークのうち何点がベルマーク、インクカートリッジやテトラパックなのかといった内訳が掲載されています。こんなお買いものをして、その1割の〇〇円がへき地校支援にまわり、また友愛援助にいくら使ったかなど、用途についても詳しく掲載されており、集まったベルマークが適正に使われていることを理解できるようになっています。担当として活動して初

めて知ったことも盛り込み、皆さんの意識が高まることを願いながら作成しているそうです。

廊下に飾ってある50万点の盾(2016年2月に達成)を見て、立林さんは「いつから参加しているのかわからないけど、これだけ積み上げるってすごいですよね」と言います。北幼稚園が参加したのは2003年。同市の児童数は減少傾向にあり、北幼稚園も例外ではありませんが、卒園した児童の保護者や近所の方の力も借りながら、着実に活動しています。

立林さんと共に活動するPTA総務部のメンバーは、PTA会長の鈴木佳乃子さん、井瀧奈美さん、森玲奈さん、高田優子さん、仁藤紘美さん。鈴木さんは、「とても地道な作業で、集計当日だけでなく、下準備から発送までこなすことがいっぱいあるけれど、そんな努力が実り、嬉しく思います」と立林さんを労いました。

福尾園長は、「0.1点単位の小さくて細かいマークを集計して下さることに感謝しております。積み重ねて下さった点数を、子どもたちが実際に使えるものを購入することで還元していきたい」と今後の抱負を語ってくださいました。



## 佳作 京都市立嵐山東小学校

ベルマーク運動には2007年から加わっていますが、「ベルコン」への参加は初めて。負担軽減や点数増を目指して今年度から始めた試みを広く紹介できれば、との思いで応募しました。

改革はPTAの総務委員会(12人)が進めました。本部役員の松本由希恵さんは「大変といわれる作業をどうにかしたいと知恵を絞りました」と話します。

まず変えたのはマークの回収方法です。従来は、封筒に入れて児童が月1回、学校に提出していましたが、新方式では、壁掛けのウォールポケットを利用。市販品に手を加えて1階廊下に設置し、ベルマーク番号ごとに分けたポケットに入れてもらうようにしました。

各ポケットには協賛商品の写真などをあしらっています。楽しいデザインで、協賛社も見分けやすいと評判です。仕分けの手間が大幅に減りました。

ウォールポケットの上には、購入予定の備品の点数と集まった点数も掲示しています。総務委員らは、「途中経過が目



に見える、子どもも頑張ろうという気持ちになりますよね」と話します。総務委員やボランティアのPTA会員がしていた協賛会社別の仕分け・集計についても、マークの縁カットやテープ留めをやめ、点数ごとに枚数を計算するだけにしました。

テトラパックとインクカートリッジの回収も始めました。地域の回覧板でも呼びかけ、テトラパックは夏場だけで12キロも集まりました。

児童数323人の小所帯だけに点数アップはあの手この手。行事で配るお茶はベルマーク付き「生茶」。夏祭りの景品はウェブベルマークを通じて購入しました。

ベルマーク便りでは、こうした取り組みをわかりやすくお知らせしています。児童も読めるように大きめの字で漢字はふりがな付き。「活動をしっかりPRすることで、みんなのやる気をアップさせよう」というのが総務委員らの思いです。



## 特別賞 堺市立熊野(ゆや)小学校

初めて編集・発行した「ベルマーク新聞」でいきなりの特別賞。簡潔明瞭な文章と読みやすいレイアウトで1ページに様々な記事を上手に載せている点が評価されました。手書きの柔らかいタッチも



親しみやすさを感じさせます。

編集した昨年度のPTA施設委員長の永田桃子さんは、「見やすく、わかりやすく、かわいらしい紙面を心がけました」。絵や写真を多用して、文字は少なめにしたと言います。

ベルマーク運動の説明会に出席して、ベルマークでの購入費の1割がハンディのある学校の支援に役立てられていることや、ネットショッピングで点数を貯められるウェブベルマークなどを初めて知り、「みんなに伝えたい」と思ったことが新聞創刊につながりました。4年ほど貯めていたベルマーク預金で、ボール類や一輪車など約26万円分の備品を一挙に購入した報告も、目的の一つでした。

児童数300人ほどの学校ですが、毎年4～5万点のマークが集まります。

初めて編集・発行した「ベルマーク新聞」でいきなりの特別賞。簡潔明瞭な文章と読みやすいレイアウトで1ページに様々な記事を上手に載せている点が評価されました。手書きの柔らかいタッチも

親しみやすさを感じさせます。編集した昨年度のPTA施設委員長の永田桃子さんは、「見やすく、わかりやすく、かわいらしい紙面を心がけました」。絵や写真を多用して、文字は少なめにしたと言います。ベルマーク運動の説明会に出席して、ベルマークでの購入費の1割がハンディのある学校の支援に役立てられていることや、ネットショッピングで点数を貯められるウェブベルマークなどを初めて知り、「みんなに伝えたい」と思ったことが新聞創刊につながりました。4年ほど貯めていたベルマーク預金で、ボール類や一輪車など約26万円分の備品を一挙に購入した報告も、目的の一つでした。児童数300人ほどの学校ですが、毎年4～5万点のマークが集まります。

明治5(1872)年創立の伝統校だけに、学校を支えようという地域の思いはとりわけ強く、地元のスーパーに置いた収集箱は2～3カ月で満杯になります。総点数の半分は、こうして地域から寄せられた分です。

いま力を入れているのはウェブベルマークのPRです。新聞でも、全国2391校中329位というウェブベルマークでの熊野小のランキングを載せ、「めざせ！関西ベスト10」と宣言しました。今年度の施設委員長の喜多行美さんは、協賛会社の負担で東北の被災校に1円が寄付できるウェブベルマークのワンクリック募金をとりあげ、「そういう社会貢献活動も伝えていけたらいいな」と言います。

PTA会長の松原唯夫さんは「施設委員のみなさんには熱心に取り組んでいただき、ありがたく思っています。地域の人たちの協力にも感謝しながら、引き続き頑張っていきたい」と話しています。

